
ご挨拶

第51回日本消化吸収学会総会

会長 清水 京子

東京女子医科大学 消化器内科 教授

この度、第51回日本消化吸収学会総会を2020年11月21日(土)に、京王プラザホテルでの開催を目指し準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス(COVID-19)感染がまだ収束を見通せないことから、理事会での審議の結果、Webにて開催することとなりました。Web開催という新しい形式に挑戦させていただきますことを大変光栄に存じます。日本消化吸収学会は昭和45年に日本消化吸収研究会として設立され、千葉大学旧 第一外科ご出身の名尾良憲先生を世話人として第1回消化吸収研究会が開催されました。昭和59年に学会として改組され、第16回より日本消化吸収学会総会として現在に至っております。歴史と伝統のある本学会の中で、東京女子医科大学消化器内科からは、小幡裕名誉教授が第21回総会、白鳥敬子教授が第43回総会を開催されました。今回、第51回総会の会長を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。

今回の総会のテーマは【分子から臨床へ「生きる」を支える消化吸収への挑戦】です。日本消化吸収学会が設立され半世紀となりますが、その間、検査法、薬物療法、手術手技や術式、栄養療法、緩和療法などは格段に進歩し、日本人の平均寿命も世界のトップレベルになりました。消化吸収は一生涯を通して生命維持に欠くことのできない生理機能であるとともに、分子レベルでの異常が疾患の原因となり、その機序の解明が有効な治療法の発見につながります。また、消化吸収機能は複数の腹部臓器による臓器相関のほか、神経系、内分泌系、血管系、免疫系などとの関連性が深く、複雑な病態を呈することが特徴です。長寿社会の健康維持、疾患の予防や治療効果の改善、精神的幸福感などを支えるためには、複雑な消化吸収を解明し、治療に結びつく成果を出すことが重要です。今回のポスターは新宿御苑の春夏秋冬の四季の移り変わりをモチーフとし、すべての人類に共通する消化吸収の大切さを表現しました。薬理学、生理学、分子生物学、理学、工学などの分子レベルの基礎研究と、内科、外科、看護学、栄養学などの臨床医学の研究者とが一同に介して、様々な観点から研究発表と討論を行うことで、未来に向けた実行可能な新しいアイデアを発掘し、イノベーションを起こす原動力になる総会を目指しています。

皆様からの多くの演題登録とご参加を心よりお待ちしております。